

グループワーク（山間地）

（１）地域マップ（通いの場・移動販売・商店など）と地域課題の整理

追加の情報

移動販売

- ・いとう食品 昔からの馴染みには行かせてもらっている。数が増えると断るかもしれない。
- ・セブン（成羽町店） 地域の集まりにまとまった量なら布寄当たりなら配達可能。
- ・セブン（成羽東） 個別配達。アプリ セブennaウ2000円以上で半径5キロまで。アプリで配達布賀になることもある。店長
- ・河内鮮魚店（火）、備中坂本布寄、（木）小泉中野宇治羽根 馴染みに訪問して、簡単な食料も
- ・細川商店 戸別配達している。店員が1人なので要相談。
- ・平松鮮魚店 グループホーム高梁に配達している。24時間どこでも行きます。魚、総菜など。携帯電話で繋がれば配達。
- ・杉田商店 配達していない。
- ・ほうこくん 代行・配達 高梁津川玉川
- ・とくしまる 中井、成羽町
- ・たけなみさん吹屋あたりまでなら言っている。
- ・生協、ヤクルト、補聴器販売（ライフケア）

場所、人の集め方について

- ・通いの場の情報を知っていただくと連携が取れる、売上に繋がるのかもしれない。サロン等への訪問の許可はいるか？事前の了解があればOKでは。サロンの代表会等で、事前説明もできるのではないかとと思うが、公的な場所なら許可が必要になる可能性もある。
- ・サロン参加者から声掛けをして依頼するか。買い手、売りが話し合い決めていくことも必要では。
- ・市民センターの地域貢献のための利用も必要だろう。各町内から人数を集めるのは大変なので、集まるタイミング、集める手段（移動方法）も必要。行事に移動販売を合わせる必要も出てくる。そのマッチングはどのようにできるのか。行政は公平性を欠く。社会福祉協議会はマルナカ誘致の実績あり、相談があれば調整しますが、継続には売り上げが必要。
- ・SNSアプリなどを利用して希望商品、ニーズをグループで蓄積できれば、より効率のいい訪問販売ができるのではないだろうか。
- ・人を集める場所、機会があれば移動販売も効率がいいのではないか。高倉は集いの場に27人くらい集まっている。ミニデイや、体操は集まりが悪い。何をすることも大切だろう。
コミュニティカフェは参加者が多く集まりもよく成功だと思う。そういうところを活用できればいいと思う。川面のカフェはパンドミ、移動図書館のある日に合わせていて利用客もいる。
- ・また、時間帯も、カフェなどの終了のタイミングがちょうどいい。
- ・集まる機会に移動販売、移動販売の機会に出てきて集まってもらうのもありだろう。買物が目的になる人もいる。
- ・地域に広く知らせることで、交流機会の創出にもなる。ケアマネなど広く連携することも良いと思う。

携帯電話で困っている人が多い。社協 西垣さんが年4～6回講習会をしている。NTTドコモの講習会もあり。

グループワーク（山間地）

（2）R8年度取り組み内容について

- ・渡辺委員はサポーター登録済み。お助け隊は利用者がゼロ。いきサポもゼロ。地域でも見直しをしないといけない。お助け隊のマグネット配布をしたが、知らない方もいた。話を出すと4、5人希望者もあったが、ボランティアを集めることができない。必要性もはある。ゴミの分別ができず家のほとりにまとめてあり、持っていくことができず、誰かに頼む人もいる。
- ・介護保険サービスの前にいきサポを、ということだったが、要支援ならヘルパー利用になってしまう。サービス内容が重なるし、利用報告もヘルパーならある。
- ・介護認定を受けてからケアマネジャーに相談が行くので、ヘルパー利用という流れになるのだろう。
- ・社協にお助け隊がありに通っている。また、マッチングが難しい現実もある。そのため、介護保険のヘルパー利用になる。草取りなどの要望もあるが、お助け隊の中に草取りができる人がいないということもある。
- ・一般の方で知られていないのではないかと。養成講座を受けようという人に繋がらない。5回講座なら途中でやめる人や、修了後登録せずに終わる方もあるのでは？講座の回数を減らすなど敷居を下げる工夫がいるだろう。

その他取り組みについて

スマホの使用について、困られている方へのサポート 集う場所にNTTドコモなどに来てもらうなど。

社協にも事業あるが、地域の方をお願いしているのでNTTに依頼できるか分からない。講習会より相談がしたいのだろう。分からないところを聞きたい。光畑委員の方で社協に持ち帰ってみます。地域の方の方が受け入れがスムーズというのはある。

移送サービスなどがもっと利用しやすくなれば利用数増に繋がるかもしれないが、活動も実施ボランティア団体の運営状況によるところが大きいので、難しさもある。

グループワーク（市街地）

（1）地域マップ（通いの場・移動販売・商店など）と地域課題の整理

- ・便利そうに見えてすぐ歩いて行ける場所が少ない、市内循環バス等の時間が合う通いの場があればいい。
- ・バスがあっても乗り降りが難しく利用をあきらめる利用者がいると聞く。ノンステップバスの導入には多額の費用がかかり現実ではないため乗り降りの台を導入してもらうなど働きかけが必要と思う。
- ・マルナカの移動販売車は手数料が低く地域貢献の一環で事業をしている聞く。市街地でも奥万田、小高下においても他地域の販売ルートに合わせて導入の橋渡しが必要かもしれない。
- ・移動手段といっても医療なのか買い物か困っている状況は様々なのでターゲットを明確化した支援方法を考えなければいけない。
- ・通院面で移動が困るのであれば医療のオンライン化を進めることが重要だと思う。高齢者はどうしてもPCだったりスマホの操作が難しい場合があるのでそういった面での支援が必要になると思う。

（2）R8年度取り組み内容について

- ・いきいき生活サポート事業の仕組みや継続についての検討。
- ・診療所が減少しており地域医療の継続が課題となっている。実現可能かは別としてドクターカーを利用して研修医を研修の一環として地域の集会所等に派遣してもらい、診療所の代替となる方法になるかの検討。
- ・高齢者のスマホ利用支援についての検討。